

文教厚生常任委員会 研修レポート

11月10日

研修テーマ

かえで
合志市立楓の森小・中学校


廊下の長さが約130mある校舎

合志市では、昨年4月に初めて、施設一体型の小・中学校として、合志市立楓の森小・中学校を開校されました。

校舎は、3階建てで1階が小学1、2年生、2階が小学3、4、5年生、3階が小学6年生と中学1年生から3年生となっており、小学6年生と中学生を同じ階にすることで、スムーズに小学校から中学校へ移行できるよう配慮されています。

また、通常では、小学校にはない武道場があるほか、運動場は、大津小学校の約3倍、体育館は約2倍の大きさがあり、多目的教室や図書館も、おおむね2校分の広さがあるため、様々な活動に広く利用されていると



のことでした。

学校建設による校区の変化や今後の見通しは、校区内の住宅開発の問い合わせも多く寄せられ、引き続き児童生徒の増加状況が継続する可能性があるとのこと。

また、日本唯一のハンセン病専門の刑務所跡地に建つことから、人権教育のモデル校として、差別や偏見の解消を願う石碑が設置されていました。

小中連携、一貫教育の実施により、これからの変化の激しい時代において、コミュニケーション力や課題を見つけ出す力を育てていくための教育を推進されていることに対し感銘を受けた行政調査でした。

自衛隊熊本地方協力本部長が表敬訪問

国の機関と密接に連携、研修や意見交換会の開催等の協力を

10月27日、大津町議会議長・副議長は自衛隊の連絡機関である、はしもと 熊本自衛隊熊本地方協力本部長が表敬されました。

近年重要性が増している地域と連携した防災対策や、自衛官募集も含めた広報協力の要望もいただいた。

表敬の中で平成28年熊本地震における災害派遣での県内外からの手厚い支援に感謝を申し上げるとともに、自衛隊に対する理解促進のため、研修や意見交換会の協力並びに昨今の日本を取り巻く国際社会の状況に鑑み、自衛隊への協力体制の醸成にお互い協力をしていきたいと述べた。

その後新議場を案内し、ICT化に取り組み環境やコロナ対策に楯本本部長も感嘆された。

